

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370300677
法人名	医療法人 愛生会
事業所名	グループホーム 愛生
訪問調査日	平成 20 年 2 月 21 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 18 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査結果概要表

作成日 平成 20年 3月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4370300677
法人名	医療法人 愛生会
事業所名	グループホーム 愛生
所在地	熊本県人吉市二日町22番地 (電話) 0966-24-6965

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成20年2月21日	評価確定日	3月18日

【情報提供票より】(20年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日	18年3月30日1ユニット追加
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	15 人	常勤 14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 14.5

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート
	6階建ての 4階~5階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	700 円		

(4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	7名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.6歳	最低	68歳	最高	101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	外山内科 外山病院 熊埜御堂歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

人吉市の中心地の中の愛生医院の4・5階にあるホームは、その立地条件を払拭するように、家庭的な雰囲気の中で、職員や入居者の柔和な表情があり、相互の信頼関係が構築されている。今年も職員の目標“ニコニコ楽しくゆっくりと(泣いて 笑って はらかいて)一日を大切に”と例として101歳の方の目標“病気をしない”等入居者個々が目標を定め、その目標に向かって邁進されている。入居者個々の注意点の揭示や、介護注意点として思いやりの気持ちやリズムに合わせたケア、目線を合わせたケア等を共通認識として個別ケア、チームケアが実践されている。地域の中での生活も充実しており、地域の協力や母体施設との連携のもと、様々な行事への外出や生きがい作りが行われ、日常的にも公文式学習法を取り入れたり、階下の認知症デイサービスの“愛生の湯”の使用など立地条件をフルに活用している。階下の医院との連携により、医療行為を受けながらの生活が継続でき、家族の意向を踏まえ最期まで支えていきたいとターミナルケアに臨まれている。法人理念のトータルケア体制の確立や地域福祉の一役を担っておられ、今後更なる発展が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の評価を基に話し合いがもたれ、インシデントレポートの記録方法の改善や地域との交流、職員の勤務体制が整備され、ホーム職員の夜勤対応により入居者の落ち着いた生活を支援出来るようになるなど、具体的な改善に取組まれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部の目を通してケアの質を上げ、ケアの統一が必要と考え、訪問調査により緊張感が職員に刺激を与えることも目的の一つとしている。今回の自己評価は管理者の意見を基に話し合い、一つにまとめている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的な運営推進会議は多方面からの参加を得、ホームの現状報告や意見交換を行い、サービス向上に活かしている。委員からの申し出で月1回デイサロンへ参加や委員から行事をリサーチしたり、地域の中での暮らしが拡充されている。2ヶ月毎に作成した地域交流ニュースの配布により、認知症ケアの実践を見てもらい、更に質の向上へ繋げたいと取組まれている。管理者は行政担当者やネットワーク作りやモデルとして参加し、キャラバンメイトの立上げの協力要請にも応じており、更に協働して取組んでいく意向である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月手紙と行事予定表やグループホームニュースにより、暮らしぶりを報告している。家族の訪問時や運営推進会議を意見や要望を聞く機会と捉え、家族の些細な意見でも連絡ノートに記載し、ミーティングやカンファレンスで話し合いを持ち、ホーム運営に反映している。年3回家族交流会も開催されている。重要事項説明書に苦情申立窓口と担当者、苦情対応方法を明記しているが、更に外部への表出の機会として外部機関の明示をお願いしたい。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>デイサロンや夏祭り等の他様々な行事へ参加し、地域との交流が図られている。幼稚園や小学校から運動会や音楽会へも招待され、ボランティアスクールとして開放したりと相互交流が行われ、職員も祭りの手伝いをする等地域活動に参加し、地域生活の拡充に努力されている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念“医療・介護・福祉・保健のトータルヘルスケア体制の構築と地域に貢献すること”を基に、ホームとして“尊厳 自立 共生”を掲げている。“尊厳”は入居者を人生の大先輩として一人ひとりを大切に、“自立支援”は家族としてケアすることから、“共生”は地域の一員としてのルールであることなどを具体化して示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は業務ミーティングやカンファレンス時理念に向けた実践の方向性を示し、日常的にも事例を通じて指導をしている。事務所内には介護注意点として、相手を思いやる気持ちやリズムにあわせたケア・視線を合わせ、些細なサインでも見落とさない気づきでのケアの3項目を掲げ、毎年目標を掲げ、その実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	デイサロンや夏祭り等の他様々な行事へ参加し、地域との交流が図られている。幼稚園や小学校から運動会や音楽会へも招待され、ボランティアスクールとして開放したりと相互交流が行われている。又職員も祭りの手伝いをする等地域活動に参加している。毎月講話を聞きにいかれる入居者の為にスロープを付けるなど、地域も協力的であり地域との交流が深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は今のケアに満足せず、外部の目を通してケアの質を上げ、ケアの統一が必要であり、訪問調査により緊張感が職員に刺激を与えることも目的の一つとしている。昨年度の評価を基に話し合いがもたれ、インシデントレポートの記録方法の改善や地域との交流、職員の勤務体制が整備され、ホーム職員の夜勤対応により入居者の落ち着いた生活を支援出来るようになるなど、具体的な改善に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議は多方面からの参加を得、ホームの現状報告や意見交換を行い、サービス向上に活かしている。委員からの申し出で月1回デイサロンへ参加や委員から行事をリサーチしたり、地域の中での暮らしが拡充されている。2ヶ月毎に作成した地域交流ニュースの配布により、認知症ケアの実践を見てもらい、更に質の向上へ繋がりたいと取組まれている。	○	運営推進会議は多くの外部からの参加を得ているが、ホームの職員の参加が固定化しているようなので、ローテーションを組んで参加したり、全職員に配布し、共有化を図られることを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政主催の研修会の参加により情報交換やバスハイクや行事への参加を促している。包括支援センターの職員の実習もあり、共に質の向上に取り組んでいる。管理者は行政担当者とネットワーク作りで話し合ったり、モデルとして参加し、キャラバンメイトの立上げの協力要請もあり、更に協働して取り組んでいく意向である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月手紙と行事予定表やグループホームニュースにより、暮らしぶりを報告している。金銭預り金は残高のコピーを毎月送付し、来訪時にも捺印により確認が取られている。家族の訪問時には心身の状況を説明し、急変や受診後等は随時電話連絡により家族の安心へ繋げている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や運営推進会議を意見や要望を聞く機会と捉え、家族の些細な意見でも連絡ノートに記載し、ミーティングやカンファレンスで話し合いを持ち、ホーム運営に反映している。年3回家族交流会も開催されている。重要事項説明書に苦情申立窓口と担当者、苦情対応方法を明記している。	○	更に外部への表出の機会として外部機関も明記されることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職はほとんど無く、グループホーム2ユニットでの異動は入居者の心身の状況により行われている。日曜日の日勤帯に母体医院の職員の応援を得ているが、ほとんどが顔馴染みであり、馴染みの関係となっている。	○	今後も入居者との馴染みの職員による継続的なケアや家族の安心に繋げるため、職員との面談やコミュニケーションに力を注ぎ離職防止としていただきたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修会(月1回)に参加し、年に2回はホームの事例検討会とし、法人研修の場で発表の機会が与えられている。県主催の研修やグループホーム連絡協議会のブロック会の研修等レベルに応じ参加している。管理者はキャリアアップに向け推進しており、研修や会議等掲示し周知を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会のブロック会で同業者との交流促進に繋げ、情報交換や事例検討会等質の向上に努めている。ホーム同士の相互訪問も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族の思いや意向、状況を確認し、本人の意向を踏まえた入居したいと考えている。施設に出向いたり、ケアマネジャーとともに家庭の訪問、見学や他の入居者との語らいの場を作ったり、すぐに入居に至る場合もあり、それまでのケアマネジャーとの情報交換やキーパーソン家族へ頻りに連絡を取り合い、安心感を得てもらおうよう努力している。ホームから出していたオムツを家族持参と変更し、訪問を促すなど家族との関係の再構築にも力を注いでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者一人ひとりに向き合い、傾聴に心がけ、入居者のできることを中心に協力しながらの和やかな生活となっている。梅干作りでは手加減や塩梅を教えてもらったり、郷土料理や切干大根作り等得意分野を発揮してもらい、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中、行動や表情等から個々のサインを察知している。意思の表出が困難な場合は家族からの情報や職員の声かけや観察により把握に努め、本人にとってどんな暮らしがよいかを検討し、ケアに活かしている。表情が乏しかった入居者が発語や笑いが出ており、職員の声かけや寄り添いのケアの確かさであると思われる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向に応じ、週1回(金)にカンファレンスを行い、職員の観察の結果や気づきが随所に表出された個別介護計画となっている。介護計画担当者はセンター方式を採り入れようと勉強中であるが、自分の親だったらどうしてほしいか等も模索し、歩けるうちに墓参をプランに入れたい意向である。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には6ヶ月毎に見直しはプランの状況や効果・評価を行い、家族の意向に応じ見直されている。週1回のカンファレンスや申し送り時のミニカンファレンスにより、入居者の状態に応じ医師と連携のもと家族に状況を説明し、随時見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	階下の認知症デイサービスでの入浴支援やリハビリ又職員の往診対応等美容院や外出・買い物等多機能性を活かし柔軟な対応や母体施設との合同運動会・合同レクリエーション等楽しみ事が支援等されている。日々の健康管理や医療連携により早期発見、院内にあるホームであることにより2階で透析が受けられる利点もあり、医療処置を受けながら生活が継続されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族や本人に説明し同意を得入居前からの主治医から情報をもらい、医師である理事長へかかりつけ医を変更されている。2週間に1度の定期受診や緊急時等職員が家族に代わり受診対応をするなど、適切な医療を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りに関する指針をもとに家族に説明している。重度化・高齢化が進む中、末期フォローについて、家族と主治医・職員との話し合いがなされていることが個人記録の中に詳細に記載されていた。急変時マニュアルや法人内連絡体制が構築しており、家族と共に支えられている。見取りに関する指針の整備と同意書の受入れをされ、ホームで出来る最大限のケアにより長くホームでの生活が継続される事が期待できる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼称について、“相手の会話に合わせ、昔の呼び名 ちゃんづけ、お母さん おばあちゃん と呼び合う事があります。(回想法)”と掲示し、目線での傾聴や思いやりの気持ちをモットーにケアに当っておられる事が訪問時に確認できた。記録物は事務室に保管し、個人情報開示請求書やその結果報告書も作成し、漏洩へも十分な配慮が窺える。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは一応決まられているが、一人ひとりのペースや体調により起床時間や食事時間等その人らしく生活する事を支援している。昼食後居室で昼寝をされたり、キッチンでチラシや本を見たりと自由な生活であるが、公文式学習法を取り入れ、認知症進行防止にも努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	チラシを見て入居者と職員で献立を決めたり、食材から連想されるものを聞き取り献立を立て、入居者の力量に応じ、野菜の下ごしらえや後片付け等一緒に行われている。プランターには季節の野菜を植え、食卓にのぼっている。職員は全介助の入居者の横で、ゆっくりと楽しい会話での食事となっていた。行事食や希望メニューなども取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の体調により入浴支援を見極め声かけをし、毎日入浴されている。3階にある認知症デイケアにあるラジウム泉の“愛生の湯”も火・木曜日に各ユニット毎に使用され、入居者同士で楽しまれている。夏場は夕食後の入浴やシャワー浴等も行われ、入浴拒否される入居者には声かけの職員を替えてみたり、好きな人と一緒に入ってもらおう等チェック表を確認しながら清潔保持に努めている。季節に応じ、ゆず湯や菖蒲湯等も採りいれている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の生活歴や能力に応じて、自然に得意分野を発揮できるように支援している。洗濯物たみや料理への参加、梅干漬けや梅酒作り、切干大根作り等できる事やできそうな事を支援しながら、役割を持つことで自信回復へ繋げている。季節に応じた外出や華道、地域行事への参加等年間行事計画の中に取り入れて、楽しみ事、気晴らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の意向を踏まえて、天気の良い日は近くの公園への散歩や弁当持参のハイキング等外出する機会を提供している。毎月1日は神社・寺院参拝と月2回の華道・レクリエーション(母体施設)等車椅子対応車による支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム専用の玄関は日中鍵をかけずインタホーンでの対応となっている。居室も施錠はしていないが、入居者によっては自ら内鍵をかけられることもある。入居者の状況を見守り、行動に注意しながらの生活を支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練や消火器の使い方等の訓練が行なわれている。火災報知器も消防署に直結し、煙探知機や熱探知機等安全面への整備は行われている。運営推進会議でも地域の人々との協力的体制強化や町内の独居高齢者の避難場所として検討されている。	○	ホームが4・5階であり、市内を一望できるり立地条件を活かし、地域への貢献も視野に、地域との連携や地域の消防隊との協力が得られることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況により、食事量や水分確保量が違っているが、極力見た目には同じように小さなカップにしたみたりと工夫しながら支援している。透析を受けている入居者には水分量を500cc未満に抑え、時には尿排出量もチェックし、水分確保を支援している。食事チェック表や体重測定等による健康管理と、母体医院の管理栄養士の協力のもと個々の入居者に応じた適切な支援となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	医院の4・5階の入院病棟であることを払拭するように家庭的な雰囲気作りがされ、写真や入居者の作品を掲示したり、生け花等季節感を醸し出している。また、介護状況から食卓テーブルの位置を変更したり、ソファの位置等も話し合いながら季節や状況に応じ随時変更している。畳の部屋にはコタツを置き、昼寝や語らいの場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には使い慣れたものの持込を依頼し、ベッドの位置や2畳のたたみを敷いた部屋等自由にレイアウトされている。タンスやひな壇の持込また写真や100歳の賞状等が掲示され、家族の協力と職員の心遣いが窺われる居室となっている。クッション入り床材による衝撃緩和がなされ、掃除が行届き、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 愛生
(ユニット名)	グループホーム 愛生 4階
所在地 (県・市町村名)	熊本県人吉市二日町22
記入者名 (管理者)	池田 真由美
記入日	平成 20 年 1 月 14 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目で4F

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	出来ていると思うが時間に追われている所が時々みられる。常に入居者のペースを把握しながらゆっくり過ごす時間を持つ
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	ホームページを再度検討
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	5月:球磨村の民生委員・児童委員協議会の方20名 6月:人吉西瀬校区保険指導委員の方20名 7月:小学校ボランティアスクールの見学あり。中学校の行事参加が出来ればと思う

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	電話での相談がある時は電話で対応し説明、また運営推進会議を通して地域包括支援センターとの情報交換	○	認知症に対してのネットワーク作りに参加検討
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は全職員で目を通し、出来ていない部分の検討を行いサービスの質の向上に努めている	○	去年は外部評価を受けインシデントレポートの作成、地域交流の部分で幼稚園・寺院の参加。トイレの家庭的雰囲気作りなど
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の情報を得たり、行政からの情報を得ながら行事などに活かしている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	バスハイク・GH行事の参加を促すと共に、行政主催の研修参加・地域の認知症の方の情報交換・GHブロック会参加	○	包括支援センターの職員の実習要請があり実施
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ケアマネジャーの研修・GHブロック会研修の参加などで学ぶ	○	1人暮らしの方入居で、社協での入居費の支払いで関わっている
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	包括支援センターからの報告を活用しながら勉強会やミーティングで、虐待は行なわない		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに対する考え方や理念を、また退居の件など可能な範囲で説明。医療連携体制・重度化や看取りについての対応は説明し同意を得ている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	交流会・面会時に意見をうかがい、家族からの発表の場を設けている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1回 手紙・写真(行事)預り金の残高のコピーを送り、面会時には状況報告、また電話での報告。金銭については家族のサイン。緊急病院受診はすぐに報告	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方には手紙や訪問時に意見がないか伺いながら、ちょっとした気づきがあれば言ってもらえるように、出された意見はミーティングやカンファレンスで話し合いをしている	○ ケアに反映させる努力をしている
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回 全体ミーティング(行事・業務内容の確認)	○ 職員に要望・意見を聞くように心がけているが、把握しきれてないことが多いと思う。月1回のペースで面談がもてればと考える
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事の参加・バスハイク等のときは1週間前よりミーティングを行い職員配智の調整を行い、又状態変化を生じた時は緊急連絡体制をとっている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームの職員の移動は4F・5Fのみで行なっている。ほとんど顔なじみ、夜勤もグループ職員。新しい職員が入るときは入居者に紹介している	○ 日曜日出勤は外山内科職員の応援

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修の参加・事業所外の研修参加 年2回が ループホームの発表の場を設けている	カンファレンスを通じてその人のケアの把握を行なっている
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人吉・球磨グループホームブロック会の学習会や交流を持ち、他のホームの見学、事例検討会を通してサービスの質の向上を目指す	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の状態を見ながら声かけ、勤務時間中の休憩にて気分転換が図れるよう努めている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務表作成する時希望休を提出することが出来る	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居する前に本人と面談し生活状況の把握に努める	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が求めていることを事前に面談し今までのサービス利用状況や経緯について聞きどのような対応ができるか検討している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接する時に本人と家族の思いや状況を確認している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に本人の施設見学・他の入居者や職員と会う場面をつくっている 又すぐ入居される方には家族やそれまでかかりあったケアマネなどに立会いをしてもらい安心感を得るよう心がけている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の一言に傾聴を心がけ共に支えあえる関係作りに留意しお互いに協力しながら和やかな生活を送れるように声かけを行なっている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子・くらしの出来事や気づきの情報を家族に伝えながら行なっている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事への参加の誘いや日頃の様子を報告・相談している。家族との外出・外泊、又外食自由 面会も自由	○	外泊する機会が増え家族との時間があればよいと思う。遠い所の家族の方で行事参加は増えている
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室を家で利用していた物を持ってきてもらっている。昔から利用している美・理容室へ行かれる人、親友の面会など	○	キーパーソンの方と相談しお墓参り・自宅への道のり確認の検討
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	みんなで楽しく過ごす時間・気の合った人同士での会話、又心身状態や気分・感情での変化がある時は見守りながら行なっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された方に対しては家族と連絡をとり会いお見舞いや状態把握に努めている。 お便りを出している	○	行事の参加のお誘いや遊びに来てもらうように、付き合いが出来るように心掛ける
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 困難な場合は、本人本位に検討している	かかありの中で声かけや、言葉・表情などの把握につとめ確認。 又困難な方は家族からの情報を得ている。 常に本人にとってはどうのような暮らしがいいのか検討	○	入居時には表情があまりなかった人が毎日の声かけや会話を通じて今では声を出して笑い、一言単語を発語することが出来た
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に馴染みの湯のみ・茶碗、今まで使用していたタンク・鏡台・椅子など持って来てもらい、又本人や家族にどんな生活をしてきたか聞いている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の一人一日の生活リズムを知り行動から、又は言葉から感じ取り全体を把握するように努めている	○	排便のチェックの仕方(体が変わわ、子供さんの名前を呼ばれる)などの時排便が必ずあるのに気づく。 ちょとの気付きを大切にする
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや意見交換でカンファレンス・モニターリングを行なっている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画状況・効果・評価をすると共に職員の記録、家族の意見・要望に応じて見直し、又入居者の状態変化に応じて見直しを行なっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日々の暮らしの様子・本人の言葉の記録・食事・排泄チェック・内服確認表、勤務開始前の申し送り・連絡確認を行なっている。カンファレンス・ミーティング・モニターリングをしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして家族と相談した上せ早期退院にむけてホームで医療処置を受けながら生活の継続に努めている		骨盤内骨折・鎖骨骨折の入居者に対しては入院することなく、医師の指示を仰ぎ家族と相談しながら生活の継続を行なった。現在は歩行されている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	安心して暮らしていけるように民生委員・包括支援センターの方と運営推進会議を通して意見交換。文化祭見学 消防法大会見学	○	警察には声かけのみなので顔なじみを作り上げるように努力したい。消火器訓練・避難訓練は年2回実施
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デイケアの温泉を利用したり、社協の協力でデイサロンへ参加		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の参加があり、周辺情報や支援に関する情報交換を行っている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の主治医であるかかりつけ医となっている。基本にわ家族同伴の受診となっているも職員が代行するようにしている。入居時に説明・同意を得ている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		骨折・傷の入居者、肺炎・心不全に患った入居者について、入院をせず又は一日入院でホームで対応
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		重度化した入居者・終末期の入居者の方が今のところ以内ので、ちょっとした変化・受診された時は報告している
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		他の施設に移られる場合、面会にきてもらい本人と話をしてもらい、又情報交換を行なっている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>入居者にあつた声かけを行なうと共に入居者を傷つけないように対応をそている</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>入居者にあわせて声かけ、質問がある時説明し、希望時には応じている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>一日の流れは作成しているが、入居者の体調を見ながら買い物・散歩・行事参加など、その時の気持ちを踏まえながら行なっている</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>行事参加時にはお化粧品・好きな洋服を選んでもらい又ネイルケアなど 希望で馴染みの美・理容室 季節に応じて声かけをしている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>メニュー決め・食事準備・台拭き・箸・お茶くみ配り・食事配り・後かたづけなど</p>	○	プランターで育てた野菜を利用。種類を増やしたい
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>入居者方が要望される時・誕生日・行事食の時など 食欲低下している時にも好きなもの</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、尿意を伝えられない入居者に対しても時間を見ながら誘導。一人一人の排泄パターンを把握声かけを行なっている		排便コントロールにも排泄チェック表を使用し赤丸の印を名前の所へつけ全員が把握出来るように工夫している
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人体調を見ながら声かけを行い、四季を通してほぼ毎日入浴。仲の良い入居者同士はいっしょに、一人が好まれる方、夜間に希望がある時は夜間に行なうこともある		入浴を嫌がられる方に対しては現在誘導の仕方や、いつ入浴したかを日付けチェック・声かけの工夫をしている
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人体調・表情を見ながら声かけ、居室の温度調整・ゆっくり休める場所への移動・不安で寝付けない時は添い寝・暖かい飲み物・おしゃべりなどで対処している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に応じた外出・行事参加などの楽しみ 梅干し・梅酒作り、切干大根作りなど 入居者の方の出来そうなことは頼みながら感謝の言葉を忘れずに行なっている		ふるさと祭り 文化祭見学 イチゴ狩りは行なっている
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力でお金を手元に置いている人、お金をあづかっている人でも受診時・薬取り・神社参り、外出じなどは自分で支払いが出来るようお金の手渡しをしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	四季を通じて近くの公園、弁当持参でハイキング 月1回神社・寺院参拝 月2回華道・レク参加 買い物 ドライブ 天気の良い日は散歩への声かけ		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠くへの外出は一ヶ月前より職員の勤務調整・家族の参加も促している		汽車を利用してコスモスの花の見学

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年 年賀状・暑中見舞いの手紙を出している 電話希望時、電話がかかってくる時など		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定はしていない いつでも面会出来るように居室での話OK		夜間時ではインターホンで確認し面会をしていただいている
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の参加 申し送りで確認 身体拘束はしない方針		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間はオープンにし施錠なし 夜間はセコム管理(22:00～翌6:00) 入居者の行動に注意しながら声かけ		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者と同じ場所で記録・作業を行いながら状況把握 夜間は巡視を行い様子観察		巡視時間(21:00・0:00・3:00・6:00)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の出来る状況を把握しながら対応。 保管場所あり		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員の認識をはかり、万一事故発生した場合レポート記入し原因追求と対策検討		事故発生した時速やかに家族へ説明すると共に対応した事も報告している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が消防署で救急法の勉強会を年1回実施 夜間時の緊急対応連絡網を作成 安全委員会参加	○	インシデントレポート作成・記入
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回入居者と共に避難訓練・消火器の使い方訓練・エレベーター綴じ込み訓練など 年2回消防署査察あり	○	地域の消防隊との協力体制がとれればと考える
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に色々な行事参加・季節を感じとる為の外出・玄関の施錠などの説明。 その人にあつた対応をしていくこと話している		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日 バイタルチェック 本人からの訴え 食欲 顔色 様子の変化を見ながら状況に応じ医療受診を行なっている		医療受診の結果は家族へ報告をしている
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容は職員が把握出来るように 服薬時は本人に手渡しし、きちんと服用されているか確認		副作用の件で気になることがあれが、医療受診し医師とコンタクトをとっている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表記入し 水分補給・食物繊維・腹部マッサージなど 食材の工夫や運動		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけ 職員が見守り・介助を行なっている。又寝る前には義歯洗浄を行なっている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を作成記入し職員が情報を共有し、又内科の管理栄養士のアドバイスをもらっている	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてはマニュアル作成し予防に努めている。感染委員会への参加で情報把握	毎年 インフルエンザ予防接種わ入居者・職員全員 爪きりわ各個人の物を使用し、使用后アルコール消毒 白癬を見つけた時は最後の入浴 ペーパータオル使用
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週1回のペースで冷蔵庫の掃除・チェック、台所の水周り掃除。まな板・包丁は使用前後にアルコール消毒・乾燥 食器類などは乾燥機使用ばかりではなく日光消毒もしている	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口に手作りの表札ベンチを置き玄関に作品コーナーを設けている 玄関開放	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音 音楽 ゆず湯 菖蒲湯など 五感や季節感を意識的に採り入れている 月1回は入居者希望メニューや行事食に取り組んでいる	毎月手作りのカレンダー
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の部屋 こたつ ソファでくつろげる場所 入居者1人1人の部屋 2~3人でストーブの回りに集まりくつろぐ姿 1人の部屋で2~3人で話をされていることもある	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持参されることを伝え入居者と家族の意向に沿うように工夫している 写真 使い慣れた日用品・椅子・ダンスなど		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気に応じて、窓・カーテンの開閉 食後や一定時間帯の換気 トイレは換気扇にてにおいがこもらないように、入居者の様子を把握しながら行なっている		朝1番 掃除時 毎食後 おやつ後などリビングの窓開閉 自室は起床時と随時行なう 外気温との差を考えながら常に気配り
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の床はクッション入りでやわらかく 廊下・浴室には手すり 玄関には靴が履きやすいようにベンチを置く 足元にはすべり止め	○	車椅子対応のトイレのペーパーの位置がすこし手の届かない点があるため検討 経営者には報告
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・洗面所への場所の矢印 居室には自分の名前・写真・作品を貼り付け 状況に応じて話し合いをしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダを利用して外の空気・景色を見ながら食事会 フランタでの野菜作り 狭いベランダでは花植え		色々と工夫しながら行なっているが入居者の家族の協力で大根掘りの計画をしている

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームが人吉市の中心部に位置しており病院の建物4Fを利用し作られたホームでハード面でのリスクがやや多いと思うが西側に日本三大急流球磨川・人吉城跡を見下ろし、全方向市内を一望できる素晴らしい環境にある。ホームでの生活が単純化しないように認知症の進行予防をはかる為学習療法導入・季節行事の参加・月1回の行事食・入居者希望メニューなどを取り入れ、又地域に開かれたホームを目指すため地域との交流(幼稚園・小学校・寺院・教会・老人会・社協・デイサロンなど)に取り組んでいる。入居者のペースに合わせのんびりとゆっくりした時間を作り、楽しく笑顔が絶えない家庭的雰囲気を作り上げるよう心がけている。又病院・他の施設に直結している為年1回の健診をはじめ早期の異常発見・緊急時・急変時の対応がスムーズに出来き、入居者の方や家族の方に安心して暮らしていただけるようにスタッフ一丸となり取り組んでいる。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 愛生
(ユニット名)	グループホーム 愛生 5階
所在地 (県・市町村名)	熊本県人吉市二日町22
記入者名 (管理者)	池田 真由美
記入日	平成 20 年 1 月 14 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目で4F

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	出来ていると思うが時間に追われている所が時々みられる。常に入居者のペースを把握しながらゆっくり過ごす時間を持つ
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	ホームページを再度検討
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	5月:球磨村の民生委員・児童委員協議会の方20名 6月:人吉西瀬校区保険指導委員の方20名 7月:小学校ボランティアスクールの見学あり。中学校の行事参加が出来ればと思う

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	電話での相談がある時は電話で対応し説明、また運営推進会議を通して地域包括支援センターとの情報交換	○	認知症に対してのネットワーク作りに参加検討
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は全職員で目を通し、出来ていない部分の検討を行いサービスの質の向上に努めている	○	昨年は外部評価を受けインシデントレポートの作成、地域交流の部分で幼稚園・寺院の参加。トイレの家庭的雰囲気作りなど
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の情報を得たり、行政からの情報を得ながら行事などに活かしている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	バスハイク・GH行事の参加を促すと共に、行政主催の研修参加・地域の認知症の方の情報交換・GHブロック会参加	○	包括支援センターの職員の実習要請があり実施
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ケアマネジャーの研修・GHブロック会研修の参加などで学ぶ	○	1人暮らしの方入居で、社協での入居費の支払いで関わっている
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	包括支援センターからの報告を活用しながら勉強会やミーティングで、虐待は行なわない		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	ケアに反映させる努力をしている
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	職員に要望・意見を聞くように心がけているが、把握しきれてないことが多いと思う。月1回のペースで面談がもてればと考える
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	日曜日出勤は外山内科職員の応援

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修の参加・事業所外の研修参加 年2回が グループホームの発表の場を設けている	カンファレンスを通じてその人のケアの把握を行なっている
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人吉・球磨グループホームブロック会の学習会や交流を持ち、他のホームの見学、事例検討会を通してサービスの質の向上を目指す	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の状態を見ながら声かけ、勤務時間中の休憩にて気分転換が図れるよう努めている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務表作成する時希望休を提出することが出来る	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居する前に本人と面談し生活状況の把握に努める	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が求めていることを事前に面談し今までのサービス利用状況や経緯について聞きどのような対応ができるか検討している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接する時に本人と家族の思いや状況を確認している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に本人の施設見学・他の入居者や職員と会う場面をつくっている 又すぐ入居される方には家族やそれまでかかりあったケアマネなどに立会いをしてもらい安心感を得るよう心がけている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の一言に傾聴を心がけ共に支えあえる関係作りに留意しお互いに協力しながら和やかな生活を送れるように声かけを行なっている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子・くらしの出来事や気づきの情報を家族に伝えながら行なっている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事への参加の誘いや日頃の様子を報告・相談している。家族との外出・外泊、又外食自由 面会も自由	○	外泊する機会が増え家族との時間があればよいと思う。遠い所の家族の方で行事参加は増えている
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室を家で利用していた物を持ってきてもらっている。昔から利用している美・理容室へ行かれる人、親友の面会など	○	キーパーソンの方と相談しお墓参り・自宅への道のり確認の検討
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	みんなで楽しく過ごす時間・気の合った人同士での会話、又心身状態や気分・感情での変化がある時は見守りながら行なっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された方に対しては家族と連絡をとり会いお見舞いや状態把握に努めている。 お便りを出している	○	行事の参加のお誘いや遊びに来てもらうように、付き合いが出来るように心掛ける
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 困難な場合は、本人本位に検討している	かかありの中で声かけや、言葉・表情などの把握につとめ確認。 又困難な方は家族からの情報を得ている。 常に本人にとってはどうのような暮らしがいいのか検討		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に馴染みの湯のみ・茶碗、今まで使用していたタンズ・鏡台・椅子など持って来てもらい、又本人や家族にどんな生活をしていたか聞いている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の一人一日の生活リズムを知り行動から、又は言葉から感じ取り全体を把握するように努めている		ちょっとした気づきを大切にしている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや意見交換でカンファレンス・モニターリングを行なっている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画状況・効果・評価をすると共に職員の記録、家族の意見・要望に応じて見直し、又入居者の状態変化に応じて見直しを行なっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日々の暮らしの様子・本人の言葉の記録・食事・排泄チェック・内服確認表、勤務開始前の申し送り・連絡確認を行なっている。カンファレンス・ミーティング・モニターリングをしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして家族と相談した上せ早期退院にむけてホームで医療処置を受けながら生活の継続に努めている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	安心して暮らしていけるように民生委員・包括支援センターの方と運営推進会議を通して意見交換。文化祭見学 消防法大会見学	○	警察には声かけのみなので顔なじみを作り上げるように努力したい。消火器訓練・避難訓練は年2回実施
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デイケアの温泉を利用したり、社協の協力でデイサロンへ参加		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の参加があり、周辺情報や支援に関する情報交換を行っている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の主治医であるかかりつけ医となっている。基本にわ家族同伴の受診となっているも職員が代行するようにしている。入居時に説明・同意を得ている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>重度化した入居者・終末期の入居者の方が今のところ以内ので、ちょっとした変化・受診された時は報告している</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者にあつた声かけを行なうと共に入居者を傷つけないように対応をそている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者にあわせて声かけ、質問がある時説明し、希望時には応じている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは作成しているが、入居者の体調を見ながら買い物・散歩・行事参加など、その時の気持ちを踏まえながら行なっている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行事参加時にはお化粧品・好きな洋服を選んでもらい又ネイルケアなど 希望で馴染みの美・理容室 季節に応じて声かけをしている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー決め・食事準備・台拭き・箸・お茶くみ配り・食事配り・後かたづけ 調理・盛り付けなど	○ プランターで育てた野菜を利用。種類を増やしたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者方が要望される時・誕生日・行事食の時など 食欲低下している時にも好きなもの	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、尿意を伝えられない入居者に対しても時間を見ながら誘導。一人一人の排泄パターンを把握声かけを行なっている		排便コントロールにも排泄チェック表を使用し赤丸の印を名前の所へつけ全員が把握出来るように工夫している
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人体調を見ながら声かけを行い、四季を通してほぼ毎日入浴。仲の良い入居者同士はいっしょに、一人が好まれる方、夜間に希望がある時は夜間に行なうこともある		入浴を嫌がられる方に対しては現在誘導の仕方や、いつ入浴したかを日付けチェック・声かけの工夫をしている
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人体調・表情を見ながら声かけ、居室の温度調整・ゆっくり休める場所への移動・不安で寝付けない時は添い寝・暖かい飲み物・おしゃべりなどで対処している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に応じた外出・行事参加などの楽しみ 梅干し・梅酒作り、切干大根作りなど 入居者の方の出来そうなことは頼みながら感謝の言葉を忘れずに行なっている		ふるさと祭り 文化祭見学 イチゴ狩りは行なっている
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力でお金を手元に置いている人、お金をあづかっている人でも受診時・薬取り・神社参り、外出じなどは自分で支払いが出来るようお金の手渡しをしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	四季を通じて近くの公園、弁当持参でハイキング 月1回神社・寺院参拝 月2回華道・レク参加 買い物 ドライブ 天気の良い日は散歩への声かけ		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠くへの外出は一ヶ月前より職員の勤務調整・家族の参加も促している		汽車を利用してコスモスの花の見学

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年 年賀状・暑中見舞いの手紙を出している 電話希望時、電話がかかってくる時など		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定はしていない いつでも面会出来るように居室での話OK		夜間時ではインターホンで確認し面会をしていただいている
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の参加 申し送りで確認 身体拘束はしない方針		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間はオープンにし施錠なし 夜間はセコム管理(22:00～翌6:00) 入居者の行動に注意しながら声かけ		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者と同じ場所で記録・作業を行いながら状況把握 夜間は巡視を行い様子観察		巡視時間(21:00・0:00・3:00・6:00)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の出来る状況を把握しながら対応。 保管場所あり		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員の認識をはかり、万一事故発生した場合レポート記入し原因追求と対策検討		事故発生した時速やかに家族へ説明すると共に対応した事も報告している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が消防署で救急法の勉強会を年1回実施 夜間時の緊急対応連絡網を作成 安全委員会参加	○	インシデントレポート作成・記入
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回入居者と共に避難訓練・消火器の使い方訓練・エレベーター綴じ込み訓練など 年2回消防署査察あり	○	地域の消防隊との協力体制がとれればと考える
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に色々な行事参加・季節を感じとる為の外出・玄関の施錠などの説明。 その人にあつた対応をしていくこと話している		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日 バイタルチェック 本人からの訴え 食欲 顔色 様子の変化を見ながら状況に応じ医療受診を行なっている		医療受診の結果は家族へ報告をしている
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容は職員が把握出来るように 服薬時は本人に手渡しし、きちんと服用されているか確認		副作用の件で気になることがあれが、医療受診し医師とコンタクトをとっている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表記入し 水分補給・食物繊維・腹部マッサージなど 食材の工夫や運動		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけ 職員が見守り・介助を行なっている。又寝る前には義歯洗浄を行なっている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を作成記入し職員が情報を共有し、又内科の管理栄養士のアドバイスをもらっている	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてはマニュアル作成し予防に努めている。感染委員会への参加で情報把握	毎年 インフルエンザ予防接種わ入居者・職員全員 爪きりわ各個人の物を使用し、使用后アルコール消毒 白癬を見つけた時は最後の入浴 ペーパータオル使用
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週1回のペースで冷蔵庫の掃除・チェック、台所の水周り掃除。まな板・包丁は使用前後にアルコール消毒・乾燥 食器類などは乾燥機使用ばかりではなく日光消毒もしている	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口に手作りの表札ベンチを置き玄関に作品コーナーを設けている 玄関開放	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音 音楽 ゆず湯 菖蒲湯など 五感や季節感を意識的に採り入れている 月1回は入居者希望メニューや行事食に取り組んでいる	毎月手作りのカレンダー
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の部屋 こたつ ソファでくつろげる場所 入居者1人1人の部屋 2~3人でストーブの回りに集まりくつろぐ姿 1人の部屋で2~3人で話をされていることもある	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持参されることを伝え入居者と家族の意向に沿うように工夫している 写真 使い慣れた日用品・椅子・ダンスなど		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気に応じて、窓・カーテンの開閉 食後や一定時間帯の換気 トイレは換気扇にてにおいがこもらないように、入居者の様子を把握しながら行なっている		朝1番 掃除時 毎食後 おやつ後などリビングの窓開閉 自室は起床時と随時行なう 外気温との差を考えながら常に気配り
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の床はクッション入りでやわらかく 廊下・浴室には手すり 玄関には靴が履きやすいようにベンチを置く 足元にはすべり止め	○	車椅子対応のトイレのペーパーの位置がすこし手の届かない点があるため検討 経営者には報告
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・洗面所への場所の矢印 居室には自分の名前・写真・作品を貼り付け 状況に応じて話し合いをしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	4Fのベランダを利用して外の空気・景色を見ながら食事会 フランタでの野菜作り 狭いベランダでは花植え 鳩の観察		色々と工夫しながら行なっているが入居者の家族の協力で大根堀りの計画をしている

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームが人吉市の中心部に位置しており病院の建物5Fを利用し作られたホームでハード面でのリスクがやや多いと思うが西側に日本三大急流球磨川・人吉城跡を見下ろし、全方向市内を一望できる素晴らしい環境にある。ホームでの生活が単純化しないように認知症の進行予防をはかる為学習療法導入・季節行事の参加・月1回の行事食・入居者希望メニューなどを取り入れ、又地域に開かれたホームを目指すため地域との交流（幼稚園・小学校・寺院・教会・社協・デイサロン・老人会など）に取り組んでいる。入居者のペースに合わせのんびりとゆっくりした時間を作り、楽しく笑顔が絶えない家庭的雰囲気を作り上げるよう心がけている。病院・他の施設に直結している為年1回の健診をはじめ早期の異常発見・緊急時・急変時の対応がスムーズに出来き、入居者の方や家族の方に安心して暮らしていただけるようにスタッフ一丸となり取り組んでいる。